

令和5年度 大阪市立木津中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標をもち、また、その向上への意欲を高める。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

令和5年度 大阪市立木津中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)			平均無解答率(%)		
			国語	数学	英語	国語	数学	英語
3 年	学校	50	59	40	34	10.1	18.8	10.1
	大阪市	—	67	49	44	5.2	11.0	6.6
4月18日	全国	—	69.8	51.0	45.6	4.6	9.6	5.7

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3 年	学校	48	52.8	44.4	42.1	39.2	40.4	12.3	4.6	17.7	15.5	12.3
	大阪市	—	62.3	54.2	51.9	47.8	54.3	9.9	2.9	10.6	8.0	6.2
9月5日	大阪府	—	62.1	54.7	52.2	47.6	54.2	10.3	3.1	11.2	9.0	6.5

※ 3年生の理科はC問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】	聞くこと 【リスニング】	書くこと 【ライティング】	話すこと 【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3 年	学校	49	85.0	90.5	87.4	83.2
	大阪市	—	101.3	107.7	137.9	102.2

令和5年度 大阪市立木津中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

- ・国語、数学、英語において大阪府及び全国平均を下回った。国語と数学の対全国比について、令和4年度と比較して、国語は4p・数学は12p改善した。無回答率は令和4年度中学生チャレンジテストと比較して、国語は2p・数学は36p改善した。
- ・生徒質問紙からは、本を読む習慣が極端に少ないことがわかる。新聞なども含めた文字に親しむ習慣の定着が必要である。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

＜成果＞

平均点は大阪府と比較して、5教科全体で10.38下回った。平均点における対府比のポイントは、0.81(前年度0.83)であるが、令和4年2年時のチャレンジテストと比較して0.1ポイント上回った。また無回答率は、国語で0.2ポイント・社会で2ポイント・理科で0.1ポイント改善した。

＜課題＞

対府比のポイントについては、大きな改善は見られなかった。無回答率においては、令和4年2年時のチャレンジテストと比較して5教科平均で0.6ポイント改善している。生徒のテストを通じて、記入(アウトプット)しようとする姿が見受けられる。本校で取組んでいる日々の学習をはじめ、授業規律や基本的生活習慣の確立・習熟度別少人数授業や放課後学習会など個々の状況に応じた粘り強いきめ細かい指導の継続が必要である。

○大阪市英語力調査(GTEC)

＜成果＞

大阪市と比較して、「読むこと」は16.3、「聞くこと」は17.2、「書くこと」は50.5、「話すこと」は19.0それぞれ下回った。結果は大阪市を下回ったものの、毎時間「読むこと」を意識して取り組むことにより、CEFR-JはA1.2と昨年度と変わらぬ結果となった。「書くこと」では、CEFR-JがA1.1と下がってしまった。単語テスト等で語彙力は身につくもの、論理だてをつなげて書く力の育成は、継続した指導が必要である。

＜課題＞

英語での自己表現をする機会を増やし、少しでも文章を書けるように工夫していく。読解力や豊かな表現力など教科横断的な指導が必要となる。

【今後に向けて】

- ・習熟度別少人数授業をはじめ、補充学習・放課後学習会・中3集中学習会や個別学習指導・分割授業等、個々の状況に応じたきめ細かい指導をさらに継続していく。
- ・朝食の喫食率が年を追うごとに下降傾向になっている。改めて食の大切さを家庭と連携して啓発していきたい。
- ・「よいところを認めてくれる」について肯定的な回答の割合が、大阪府及び全国平均を上回った。更に自己肯定感を高める取り組みを進める。